

六 ン、ツ、ー等ニ關スル調査案

(主査委員 大槻文彦)
(補助委員 岡田正美)

七 長音符拗音符促音符等ニ關スル一覽表

(補助委員 新村出)

八 加行延音動詞用例竝ニ右用例ニツキテノ意見

(補助委員 大矢透)

九 音韻調査上所用ノ「ローマ」字書キ方案

(補助委員 新村出)

一〇 佐賀縣外二縣各小學校生徒ノ長音表記ニ關スル調査報告書

(補助委員 保科孝一)

一一 外國地名及人名ノ書キ方及讀ミ方取調委員ノ調査報告中書キ方ニ關シテ取調フヘキ事項

(補助委員 新村出)

一二 送假名法起草ニツキテ取リタル方針

一三 漢字省減案整理ニ關スル方針

一四 待遇ニ依リテ違フル語遣ノ表

(補助委員 岡田正美)

起草委員會議案

明治三十五年四月ヨリ
同三十六年七月ニ至ル

一 字音表記法

(補助委員 保科孝一)

二 國語表記法

(同上)

| | | |
|----|----------------|--------------|
| 三 | 文法改正案 | (同上) |
| 四 | 字音表記法整理案 | (同上) |
| 五 | 漢字省減案(第一) | (同上) |
| 六 | 國語調査方針 | (同上) |
| 七 | 同上修正案 | (主査委員 上田 萬年) |
| 八 | 漢字省減案(第二) | (補助委員 保科 孝一) |
| 九 | 國語調査方針ニ關スル修正案 | (補助委員 岡田 正美) |
| 一〇 | 同上 | (主査委員 大槻 文彦) |
| 一一 | 國語表記法整理案 | (補助委員 保科 孝一) |
| 一二 | 母音ニ關スル調査案 | (補助委員 新村 出) |
| 一三 | 漢字省減第一回整理案(第一) | (補助委員 林 泰輔) |
| 一四 | 聲音ノ寫シ方及語學上ノ用語例 | (補助委員 新村 出) |
| 一五 | 漢字省減第二回整理案(第一) | (補助委員 林 泰輔) |
| 一六 | 音韻組織調査方案 | (補助委員 新村 出) |
| 一七 | 漢字省減調査方針 | (補助委員 林 泰輔) |
| 一八 | 假名遣改正案 | (主査委員 大槻 文彦) |

一九 語法改正案

(同上)

二〇 送假名法案

(補助委員 岡田正美)

二一 發音調査ニ關スル事項

(補助委員 新村出)

二二 「タイプライター」ニ用キル假名文字竝ニ符號ニ關スル件 (文部省文書課長ヨリ調査方依頼)

二三 外國地名及人名ノ稱ヘ方及書キ方ニ付文部省取調委員ノ調査報告中書キ方ニ關シテ審議スヘキ事項

(補助委員 新村出)

二四 文法上品詞ノ名稱竝ニ分類ノ改定ニ關スル件 (補助委員 岡田正美)

二五 代名詞ノ制定ニ關スル件 (主査委員 大槻文彦)

二六 方言蒐集方案 (補助委員 保科孝一)

二七 漢字省減案(第一)中副詞表 (補助委員 林泰輔)

二八 方言蒐集方案目錄 (補助委員 保科孝一)

二九 代名詞ノ制定ニ關スル整理案 (主査委員 大槻文彦)

三〇 送假名法起草ニツキテ取リタル方針 (補助委員 岡田正美)

三一 方言蒐集方案ニ對スル修正案 (同上)

三二 漢字省減案(第一)整理方針 (補助委員 保科孝一外一名)

三三 代名詞制定案ヲ定ムルニ就イテノ方針 (主査委員 大槻文彦)

三四 漢字省減案(第一) 中、副詞表ニ對スル修正案

(補助委員 保科孝 一外一名)

三五 土音方言取調ニ關スル事項

(主査委員 大槻文彦)

三六 送假名法別案

(主査委員 芳賀矢一)

(明治三六・九・一六官報)

○音韻竝口語法調査事項 國語調査委員會ニ於テハ國語調査資料蒐集ノタメ別記音韻竝ニ口語法取

調ニ關スル事項ニ照シ其地方ノ音韻並ニ口語法調査方ヲ各府縣知事ニ依囑シタリ

(別記) 略

(明三八・三・八官報)

○國語調査委員會ニ於ケル文部次官演述 今般國語假名遣改定案及字音假名遣ニ關スル事項ニ關シ

文部大臣ヨリ國語調査委員會ニ諮問シタルニ付キ本月三日開會ノ同委員會ニ於テ文部大臣ニ代リ

文部次官ノ演述シタル要領左ノ如シ(文部省)——七三ページ參照——

明治三十三年八月小學教育ニ於ケル新定字音假名遣法制定以來教育者間ニ於テハ國語假名遣ニモ

字音假名遣ノ如ク學習ニ困難ナルモノ多キノミナラス字音假名遣ノミ發音的ニシテ國語假名遣ノミ全然舊來ノ假名遣ヲ墨守スルコト教育上不便ナレハ國語假名遣ニ關シテモ何分ノ改正ヲ加ヘクシトハ教育社會一般ノ希望ナルカ如クニシテ是レ誠ニ道理アル希望ナリト信ス是ヲ以テ明治三十六年中國定教科書編纂着手ノ當初國語假名遣ノ改正ニ關シ前任大臣ヨリ本會ニ諮問シタルニ本會ハコノ事タル關係スル所頗ル廣ク隨テ慎重ノ審議ヲ要スヘキモノナレハ追テ假名遣全部改定案ヲ具申スルマテハ姑ク從來ノ儘ニ差置カレタシトノ意見ヲ提出セラレタレハ現行ノ國定教科書ハ此意見ニ從ヒ編纂セシメタルモノナリ

然ルニ國定教科書モ追テ修正ヲ加フルノ必要アリ昨年來教科書調查委員會ヲ組織シテ既ニ修正ノ調査ニ着手セシメタリ該修正ニ關シテハ假名遣ノ問題ノ如キハ最モ先キニ解決ヲ要スヘキモノニシテ同調查委員會ニ於テモ慎重ノ調査ヲナシクル上國語假名遣改定案及字音假名遣ニ關スル事項ニ關シ報告スル所アリタリ依テ之ヲ取りテ本會ニ諮問シタル次第ナレハ實際ノ須要ニ鑑ミ十分ノ審議ヲ經テ何分ノ答申アランコトヲ望ム尤モ本問題ハ教育上頗ル重大ナル問題ナレハ本月下旬ニ於テ開會スヘキ高等教育會議ニ向ヒテモ同様ノ諮問ヲ發シ置キタルニ付之ヲ諒知セラレクシ

國語調查委員會調查發表事項

書

名

冊數

發行年月

調査者

國語國字改良論說年表

(一冊) 明治三十七年四月

片假名平假名讀ミ書キノ難易ニ關スル實驗報告

(一冊) 明治三十七年四月
元良勇次郎
松本亦太郎

方言採集簿

(一冊) 明治三十七年十月
保科孝一

假名字羅馬字優劣論比較一覽

(謄寫版刷一枚非賣品)
明治三十七年十一月

音韻調查報告書(二冊)音韻分布圖(二十九枚)

明治三十八年三月
上田萬年、新村出
龜田次郎、榊原叔雄

假名遣諮問ニ對スル答申

(一冊非賣品)
答申 明治三十八年十一月二十一日
發行 明治三十八年十二月

現行普通文法改定案調查報告之一

(一冊) 明治三十九年二月
大矢 透

口語法調查報告書(一冊)口語法分布圖(三十七枚)

明治三十九年十二月
岡田正美、保科孝一
新村出、龜田次郎
神田城太郎、榊原叔雄

送假名法

(一冊) 明治四十年三月
芳賀 矢一

漢字要覽

(一冊) 明治四十一年五月
林 泰輔

假名遣及假名字體沿革史料

(一冊) 明治四十二年三月
大矢 透

口語體書簡文ニ關スル調查報告

(一冊) 明治四十四年四月
保科 孝一

假名源流考・假名源流考證本寫眞

(二冊) 明治四十四年九月
大矢 透

平家物語につきての研究

前編 平家物語考
後編 平家物語の語法上下

(三冊) 明治四十四年十二月
大正 三年十二月
山田 孝雄

疑問假名遣 前編 學說の部
後編 實例の部

周代古音考及韻徵

口語法

口語法別記

(三冊) 大正 四年九月 本居 清造

(三冊) 大正 三年六月 大矢 透

(二冊) 大正 五年十二月 大槻文彦、上田萬年、
芳賀矢一、藤岡勝二、
大矢 透、保科孝一

(二冊) 大正 六年四月 大槻 文彦

○官制廢止 (大二・六・一三官報号外)

〔勅令〕

朕國語調査委員會官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正二年六月十三日

內閣總理大臣 伯爵 山 本 權 兵 衛

文部大臣 法學博士 奥 田 義 人

勅令第七十八號

國語調査委員會官制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○豫算

明治四十一年度 國語調査委員會豫算明細書

| 科 目 | 四十一年度要求額 | 四十年年度豫算額 | 比 較 | 差 |
|------------|----------|----------|-----|---|
| 第十六款 臨時調査費 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 〇 | 〇 |
| 第一項 國語調査費 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 〇 | 〇 |
| 第一目 國語調査費 | 一〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 〇 | 〇 |

明治三十五年勅令第四十九號國語調査委員會官制參看

| 第一節 諸 給 | 六、九七〇 | 内 | 譯 |
|---------|-------|-----|-------|
| 起草委員 | 三人 | 八〇〇 | 二、四〇〇 |
| 調査委員 | 一〇 | 三〇〇 | 三、〇〇〇 |
| 臨時委員 | 五 | 二〇〇 | 一、〇〇〇 |
| 書記 | 二 | 三〇 | 六〇 |
| 雇 員 | 二 | 一〇〇 | 二八八 |
| 給 仕 | 一 | 一五〇 | 五五 |
| 臨時傭人 | 三三四 | 五〇〇 | 一六七 |

| | | |
|-----|--------|-------|
| 第二節 | 備品費 | 三二〇 |
| 第三節 | 圖書及印刷費 | 一、二二〇 |
| 第四節 | 消耗品 | 三五五 |
| 第五節 | 內國旅費 | 五〇〇 |
| 第六節 | 雜費 | 六三五 |

(明治四十一年度文部省所管
歳入歳出豫算各目明細書 文部省 百二十八頁)

○〔補遺〕

明治三十八年二月國語調査委員會
並ニ高等教育會議へ諮問ノ

國語假名遣改定案 — 六八ページ参照 —

國語假名遣改定案緒言

- 一 本案ノ改定假名遣は口語文語共ニ適用スルモノトス
 - 二 本案ノ改定假名遣ハ現行ノ國定小學校教科書大修正ノ場合ニ實行スルモノトス
 - 三 本案ノ改定假名遣ハ中等教育ノ學校教授上ニモ實行センコトヲ期ス
 - 四 本案ノ改定假名遣實行ニ伴ヒ五十音圖中阿行ノおハをニ改メわ行ノゐハハニ改ム
- (國語假名遣改定案 略)

○國語假名遣改定案答申

本年二月二十七日附已發圖六三號ヲ以テ本會ニ御諮問相成候國語假名遣改定案及字音假名遣ニ關スル事項ニ對シ本會ニ於テ爾後二十一回委員會ヲ開キ別紙諮問案中朱書ノ通り修正致候尙ホ國語及字音假名遣統一上ノ必要有之新舊假名遣對照表第一號乙字音ノ部ノ如ク明治三十三年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第二號表ヲモ修正増補致候茲ニ議事及整理上ノ主要ナル事項及新舊假名遣對照表一冊國語假名遣改定案字音假名遣ニ關スル事項ノ修正案一冊相添此段及報告候也

追テ本案假名遣御實行ノ際ニハ簡易ナル口語文法（本會ニテ目下調査中）及新舊假名遣對照語彙（文部省圖書課ニテ目下調査中）ヲ前以テ若クハ同時ニ御發表相成候様希望致候

明治三十八年十一月二十一日

國語調査委員會委員長

文學博士 男 爵 加藤 弘 之
法學博士

文部大臣 久保田 讓 殿

（答申案 略）

假名遣諮問ニ對スル答申書

文部大臣官房圖書課（明三八、一二、二四發行）

（國語調査委員會・高等教育會議・帝國教育會の答申）